



発行：さいとう歯科
〒272-0137
千葉県市川市福栄3-18-22
Tel：(047)399-8217
Fax：(047)399-8217
HP：http://www.saito-dent.com

粽（ちまき）と柏餅

♪柱のきずはをととの、五月五日の背（せい）くらべ。粽たべたべ兄さんが、計ってくれた背のたけ。きのふくらべりや何（なん）のこと、やつと羽織（はおり）の紐（ひも）のたけ。（「背くらべ」海野厚）

今回は、何故、5月5日に粽や柏餅を食べるかの話。

粽は、もち米などを三角形や円錐形に作り、植物の葉で巻き、蒸したりゆでたりして加熱した食品のことです。本字「糉」は、蘆（あし）の葉で包んだ米との意味ですが、日本では茅（ちがや）の葉で巻いたことから、チガヤ巻き・チマキになったと言われます。

平安時代の百科事典『倭名類聚鈔』（わみょうるいじゅうしょう）には、「風土記（ふどき）に言う知萬木は、菰（こも）の葉に米をつつみ、灰汁（あく）で煮る」と記されています。つまり、奈良時代から粽は作られていたのです。

5月5日に結びつく話は二つあります。

昔、高辛氏の悪子が、5月5日に船に乗って海を渡っていた時、にわか暴風で水死し、その霊は水神となって人を悩ませるようになった。そこである人が、五色の糸で巻いた粽を海中に投げ入れると、水神は五色の蛟龍（こうりゅう）となり、その後は人に害を加えることはなくなった（『掌中歴』節日由緒）。

楚の歌人屈原（くつげん）は国を追われ中国文学史上の名作「離騷」（りそう）を詠む。絶望した屈原は、5月5日に汨羅（べきら）に身を投げてしまう。楚の人たちは、その死を惜しみ、竹筒に米を詰めた粽を投げて、屈原の死体を食べられないようにした（『續齊諧記』）。

いずれも、古代中国の話ですが、平安時代の『延喜式』には五月節句に粽をつくる経費として、糯（もち）米・大角豆（ささげ）・搗栗子（かちぐり）・甘葛（あまづら）汁・枇杷（びわ）・笋子（たけのこ）が計上されています。これらの食材は、タンパク質・ビタミンC・ビタミンA・カリウムが豊富で、灰汁で煮るため保存食にもなります。急激に暑くなる季節に、胃腸を整え元気をつける食べ物として食されていたようです。

柏餅は、江戸時代の寛文年間ころに誕生したようです。京・大阪では男の子の初節句には粽を配り、2年目から柏餅を贈る。江戸では初年より柏餅を用いる（『守貞漫稿』）と記されているように、関東を中心に流行しました。

柏の葉は、新芽が出ないと古い葉が落ちないので、「家系が途絶えない」＝「子孫繁栄」との意味を持ちます。



どうなったら抜歯になる？

抜歯は、歯にとって「死」を意味します。でも自然死ではありません。歯科医の診断の下、抜歯という治療を選択する場合がほとんどだからです。でも・・・

同じ歯でも抜くか抜かないか、歯科医によって判断が違ふことがあります。どうしてこんなことが起こるのか？

抜歯の明確な基準は存在せず、基準となる研究データもありません。これでは少し心配になりますね。抜歯を検討している歯の現状や、その歯の今まで辿ってきた歴史などが絡み合い、あまりにもケースバイケースで、一律の基準を設ける事が困難な背景があるからなのです。

確かに抜歯しないと治らない痛みがある時、たとえば歯が真っ二つに割れている場合は、誰が診ても抜歯が必要と判断するでしょう。また、**全体の治療計画のなかで抜歯の判断をすべきです**ので、**治療計画が異なれば抜歯の判断も違ってくるようになります**。

悪い状態でも抜きたくない

そもそも歯がなくなるのはうれしくありませんね。悪化した歯周病と言われても抜きたくない、と思う方もいらっしゃるかもしれません。このような時、重症の歯周病で歯がぐらついたり、噛みにくい、などの不快感があっても歯を温存することがあります。**でもこのような歯の周りには、悪い細菌がたくさんいます**。不快だけでなくからだの健康にとってもマイナスです。歯周病が進んだ歯を残しても生活に支障なく、見かけも良く、とはいかなくなってしまうのです。

抜くかどうかの根拠は？

重症の歯周病の歯があり、周りの歯が健康な時は歯周病の歯は早めに抜歯が勧められます。残しておく健康な歯にも悪影響が及び、ともだおれの危険があるからです。とにかく健康な歯は積極的に守る、という発想です。

一方で、状態は良くなるともとりあえず入れ歯の支えになるなどの利用価値がある歯は抜歯を急ぎません。

また、治療計画に人工歯根（インプラント）があると抜歯の判断は早くなります。インプラントを植える骨が十分ある方がインプラントにとって有利と考えるからです。

抜歯の基準は治療計画が左右しますから、治療を受ける方も治療の進め方をご一緒に考えて頂くことがとても大事です。



参考引用：新版「歯科」
本音の治療がわかる本
熊谷 崇/秋元 秀俊著
法研